

## コロナに負けずに みんなでエール！

新型コロナウイルスの終息がなかなか見通せない中、少しでも地域の仲間同士のつながりを深め、元気になっていただきたいと「社協だより」を通じてみんなで「エール」を送りたいと思います。今号では民生委員児童委員協議会の田中久美子会長と小菅ヶ谷地域ケアプラザ蒲生所長から、皆さまに激励の「エール」をいただきました。

小菅ヶ谷地区民生委員児童委員協議会会長 田中 久美子



民生委員活動の一つ「地域で見守り推進事業」が10月から2か月間に亘って行われています。コロナ禍での訪問でしたが皆様温かく迎えてくださり、私たち民生委員の励みになりました。今後も見守り活動を続けてまいります。

さて、今年の2月頃から私たちの生活は大きく変わってしまいました。「出来ない」に「いかれない」我慢の連続の日々。いつまで続くのかという不安、辛いですね。当初、こんなにも長い間コロナウイルスの影響が続くとは思っていなかった私は、「ステイホーム」の響きに少しだけニンマリ。日頃の忙しさを理由に疎かになっていた家の片付けを始めました。

出るわ出るわ不要のお宝、懐かしい物とのご対面。古い楽譜の登場で久しぶりにピアノでも…ベートーベンの「悲愴」…この時期にこの曲？案の定、

うまく弾けず悲愴感だけが漂う始末。

そうだ！楽しい曲にしようっと。

下手くそながらもピアノの音に元気をもらいました。ただ、愛猫は昼寝を邪魔され不機嫌そうでしたが…ね。音楽は心を明るくしてくれます。そして声を出すことはとても大切な事。

一人ででも大きな声を出して好きな歌を唄ってみてください。音が外れていても、歌詞が思い出せなくても♪ラララ～でいいのです。そして、笑う事もお忘れなく…。楽しい川柳を見つけました

「なあお前 はいてるパンツ 俺のだが」

「妻の愚痴 頷いてたら 俺の事」

「ばあさんの 手作りマスク 息できず」(シルバー川柳より)

ふふふっ皆さんの笑い声が聞こえてきたような…。

一日も早く、皆で声を出して笑える日が決まそうに。



実菅会の会員の皆様から、お花の「エール」をいただきました！



民生委員さんによる  
「地域で見守り活動」の訪問風景



## 横浜市小菅ヶ谷地域ケアプラザ

所長 蒲生 清孝

日頃より小菅ヶ谷地域ケアプラザをご利用いただきありがとうございます。

連日、新型コロナウイルス感染報道がある中、皆様はどうお過ごしでしょうか。小菅ヶ谷地域ケアプラザも一定の制限の元、貸室事業や自主事業など開始いたしました。制限があることで、流行前と比べてご利用が半数近く減り、閑散としたケアプラザが続いております。その中、実菅会の感染対応を徹底したサロンの開催など、改めてコロナに負けない地域の力を感じました。

全国的に感染者が増えていく中、栄区は18区内で感染率が一番低い(令和2年9月末時点)。これは、地域の力と同様、皆様お一人お一人の感染症予防への意識の高さだと思います。感染防止の一つとして、外出から帰ったら手洗い以外に顔も洗うと良いそうです。

みんなに会いたい。遊びに行きたい。旅行に行きたい。いくつもの我慢が続いていると思います。ゴールが見えない状況ではありますが、絶対にゴールはあると思っています。いつもの生活、いつもの小菅ヶ谷に戻る日までみんなで頑張りましょう！

最後にちょっと宣伝をさせてください。

小菅ヶ谷地域ケアプラザでは、たちーくんなどのキャラクターを使ったフェイスガードが作れます。ご興味ある方はお問い合わせください。



### 編集後記

新型コロナウイルスで私たちの生活は一変しました。しかし季節や自然はいつものように猛暑の夏から秋へ、咲く花々もひまわりから金木犀、山茶花へと移ろいをみせています。

ウィズコロナ状態は当分続きそうです。“ウィズコロナ”、“新しい生活様式”のなかでも、今できることを、みんなの知恵と工夫と情熱で模索していきたいと思います。

《お問合せ先》 横浜市栄区小菅ヶ谷地区社会福祉協議会 事務局:涌井 秀治(893-6418)